

2026年5月12日
ライオン株式会社

2026年度 第1四半期決算説明会 アナリスト質疑応答（要旨）

【一般用消費財事業について】

Q：一般用消費財事業が増収減益だが想定どおりか？

A：おおむね想定どおりです。増収を牽引したオーラルヘルスケアを中心に、計画に沿って重点ブランドに積極的に広告宣伝を投下したことに加え、昨年一部メディアへの広告出稿を取りやめた反動で競争費用が増加したことが減益の主要因です。2Q以降に新製品の発売を予定しており、増収増益に転じると見込んでいます。

Q：オーラルヘルスケアの売上が伸長している要因は？ 駆け込み需要があったのか？

A：主力ブランドが好調に推移したことに加え、昨年下半年に発売した高価格帯ハミガキの新製品の寄与や、歯科用ルート品の好調が継続したこともあり、大幅な増収となりました。駆け込み需要があったとは認識していません。高付加価値新製品の投入等により、今後も高い成長を目指します。

Q：オーラルヘルスケア以外の分野の状況は？

A：ビューティケア、リビングケアは4月に新製品の発売を控え販促を抑制したこともあり、1Qは減収となりましたが、2Q以降は回復を見込んでいます。ファブリックケアは洗濯用洗剤が好調に推移したことで全体でも増収となりました。

【海外事業について】

Q：タイ、中国では売上が伸び悩んだようだが要因は？

A：タイは地政学上の問題でカンボジア等への輸出の減少が続いているのに加え、国内の消費低迷の影響を受けました。そのような中でも、当社のオーラルヘルスケアは堅調に推移しており、引き続き注力することでパーソナルケアの構成比を高め、利益ある成長を目指します。中国は1Qについては中間流通の在庫水準の適正化を進めたことで減収となりましたが、2Q以降は増収基調への回帰を見込んでいます。

Q：増収増益は、主にベトナム、オーストラリアの新規連結効果によるものか？

A：為替の追い風もありますが、既存国ベースでも増収増益になっており、利益ある成長へのシフトが着実に進んでいます。さらに高収益の2社が加わったことで全体のマージンも高まっています。

【中東情勢の影響について】

Q：中東情勢の影響による原材料価格高騰や調達リスクの業績への影響は？

A：複数のシナリオに基づく試算を進めており、原油価格 100\$/BBL 水準が継続した場合、期首公表時に想定していた原材料価格の影響（10 億円の利益減）に加え、30～40 億円程度のさらなるマイナス影響を想定しています。これに対し、価格の適正化やコスト抑制、高付加価値品へのシフトによるミックス改善など、検討を進めている施策を実行に移すことでマイナスを吸収し、年初業績予想の達成は可能と考えています。

Q：2027 年以降への影響については？

A：状況は今期中には収束しない想定で、短期的な施策だけでなく、中長期的な施策も併せて検討しており、中期経営計画の目標の達成を目指します。

以上

【注意事項】

本資料で記述している内容は、決算説明会の質疑をもとに要約した当社の見解であり、その情報の正確性、完全性を保証するものでなく、今後、予告なく変更される可能性があります。

また、将来予測や業績見通しなどに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません。

そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる可能性があることを御承知おき下さい。